

門 水刺
第 1280
卷



蘿髮下巻目錄

詞玉緒よいついくたき等を係の詞とせられたる

辨

などハその係も同じき事

古といへども正し考へざれば辞を誤ることある

べき事

様言の二種の差別ある事

志支久活よかゝる辞の事

依行轉用の事

良行轉用の事

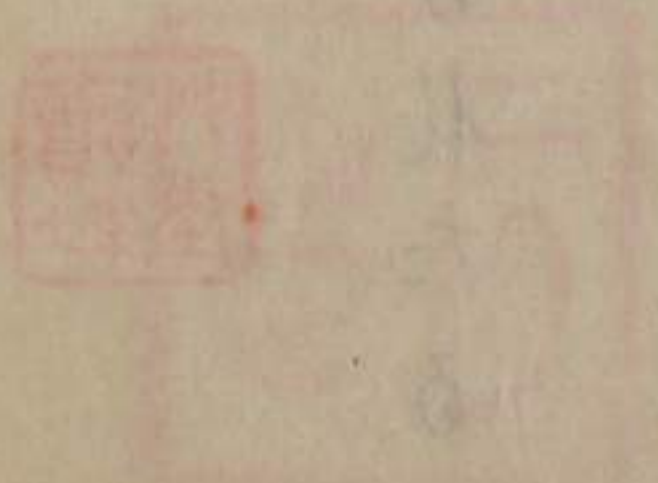


変格詞の事

活用例格



蘿鬘下巻



蘿鬘下巻

詞玉緒ハ辞又係結あることをしめ種々格ある
ことをいと委しく示されたるいとみそき辞書の
祖書又誰も必まづあの書より詞の山口にけそ
むることなるがゆてまけ入て見ればよさいのそや
かたぶある、是れをやなどおもむる、所なきより
あり交されと然おもむる、もそのもとこの書の御

詞玉緒ハ辞又係結あることをしめ種々格ある
ことをいと委しく示されたるいとみそき辞書の
祖書又誰も必まづあの書より詞の山口にけそ
むることなるがゆてまけ入て見ればよさいのそや
かたぶある、是れをやなどおもむる、所なきより
あり交されと然おもむる、もそのもとこの書の御

のけふよぞ了さること、も考へえとるゝみてとよも
 のくふもいともしく責くめでたき書よりありれまの
 くてそのいふそやおもはるゝ中かてぞのや何とあ
 けられたる何の詞れるたれいづつなどを係の詞と
 せられたるかまづその一なれはいまそを弁へおくへ
 詞玉緒線分なといふ書よもこそはこ乃書小より了
 詞ハあまといでき詞ハあまこみよぞ了この補正、因の
 いできたる小その補正、因よのがそやあの係のいあり
 了何といふことのなきをいと初くいき人のや、もあ
 れバ、いふことあれば、それをまつこゝ又さとはい

一、そは玉緒一卷、三轉證歌とてあられれたる中何
 の係を紐鏡中行^{補正}、因よの結なり、又て結ひたる例と
 てあられれたるも

後九 浅茅生の小野の志のふれとあまり了などの人のよびし

和歌所 神代よりよの^{神代}、もとめ子が下やる山のみづうきのまら

指遺 ねふたつかけのぬれを乃たれあえのみるねておをおもひそあけ

愚草 いとせのなきやうて、ほとぎんかみなひ山のやう雨のや

詞三 あふよといわれのいさ下ぬ、たなきあぬのあくるやをもつまやらん

其八 君をのいおもひこちの白山はつるのいあきのきゆるときある

三十一 ちいさなれはまきまのふあいなれどたれういぬとらしててたる

新編古 ことのももるのむべやは秋くれうつれあいのりもらはりる

三十六 あまのつむもの床のうき枕ふうきおまひいぬれあまをれる

後三十一 ふうくおまひそあつとひひしこよまはんがは月よまこちりぬる

新編三 うちを履ていづぬるる川のあひくいとやみたれりころ

新編一 春こと心をさむる花の枝よぬがなほさすのそ下ふれつる

三十一 たれいづもとめてをりつるしるあたまうくぬもやまをいづる

古四 たが里よよがれをいづるふとくきいたふととふねたるこえたる

菅下 種もむらふてむむまのたのぬるる朝の朝のほよりそく

拾七 我やとのあまのまふあつぬるる朝の朝のほよりそく

新三 ほとくきいひしとまなきていぬるよはいうてうくのいもやぬる

拾九 ありとていよふのうかふのとりやすぬをよすもなれを

後六 兼やとをいつならてかならぬあつたこふあふさるる

六帖 みくまの浦のまもふつぐさぬ春をば君がおまひぬはる

後拾九 都のあをれをこの君はおまひづるみやこり人はきこをこふあ

新十一 たれぞこのいひのひがらもたなくふ心りぬをくれをたつぬる

六帖 さだめなくあまたふこのくるむさあふいぬふのれかふいたがき

万八 なふしうもくたくこふるほとくきいぬをこえきけはひこやまやれ

万十一 あい川の山さくちとをひきおきてこのまの君をたれかとむる

万五 日まもつ子がいづおもるぬもむり一夜もおちびつぬあふぬる

ろ

後主 ころくれてたきつ山川いづれうはめちもるもる』さうなこねしきけ
森物語 尺も尺もたれとまうてかこひらき』おるつうな一のりふなあや

上件の歌どもいづまいつこいくいつくたれいつの下
かぞなどの辞ありてそのかぞなど其係を紐鏡中行まで
むすびたるみてたゞいづれいつこいくなどの〜までその
下ふかぞなどの辞のなきは必ひもか〜右行補正図に
すむなり』もつ結ぶべき格なりそは
万種あちてい〜もあやぬいこぬゆる針々の風乃たもとぬ〜も
果 しいよ〜もあ〜』さうみをなぞ〜う〜あまのかるも小おもひ〜たる〜

楽 うち〜の志のぶもあぢ〜たれや急よみたれむと思ふかならふ〜よ
後主 女ふ〜ぬことあ〜い〜うふなつ〜を』後うき物をおも〜も〜の〜ぬ
金二 名のよの月さう〜ほ〜との〜もあ〜さび小若もる情ぬ〜むも〜
新五 衣うつおと〜枕ふせがしらや仗足つ〜えも〜い〜よ〜つ』
新勅 字紗の尾上〜せ〜ら尋めれむ〜や〜この〜き〜い〜ら〜ぬ
金三 げぬ〜し〜ま〜う〜よ〜ふ〜ものなく夢よ〜い〜よ〜ぬ〜さ〜ぬ』
新四 たなむたの〜と〜む〜たる船〜かち〜の〜ふ〜つ〜行〜う〜き〜ら〜む〜の〜た〜ま〜づ〜
こきら〜の〜歌を玉緒〜に〜寝格〜としてあげ〜れたれ〜も〜れ
即〜だ〜ま〜れる格〜下寝格〜に〜あ〜い〜交〜古〜も〜万葉八〜
たれ〜き〜づ〜こ〜ゆ〜なき〜り〜たる〜かり〜げ〜もの〜つ〜ま〜よ〜ふ〜こ〜え〜の〜ゆ〜

走トハもとあまよこ伊勢物語段ハいづこまでおくりは
一づと人とともあうぬ別のなした川までとあるも同
一ことなりまよ

後上 こときもおもひこめつあるも乃を人まらるるなしたななり
同三 おひびくおわれりる山ひこたへふるをぬころななり
玉緒又この歌どもなよとつ屋バ必なるさるなむす
ぶぎ定なるもろといもで理とむすべりいとくめ
づらしき結ひなりといもれたるちよろからげそハ
上まもい屋るごとくなよなどの下まも大方なよかな
おそなどの辞のそむるものよてそのぞかなどの係りを

るとむすべりよてこのぞかなどの辞なく下たなよ
のみよてハ必理と結ぶべき格なりされどたなよと
のいへるち稀なればおのづかよめづらしくお不ゆ
るみ下實ハおと結ぶべきこと本よりの格なり土佐日
記よてかかしの雪といそべの白浪といつまされ理
おきつよ守まよ源氏若菜上よおきてゆく空も志し
れぬあけくれにいづくのつゆれらるそてなりとあ
るなども同しことありこれらりことハ三集類言よこ
とくく集へおきたるを見て志るべし

などハその係は同一き事

などの「ハ」などが、辞をはらでものがそのやかの類となりて係りとなるを、そのハ佐行の濁音と多行の濁音ハ互に通ふ例までと。ハその又通ひてその係りも全く同一はれバなり。これはおのがかすトめていひ出たること方れば、言ふことごとくつとへおハるを又て知るべし。

皇 此つ例の中にもよとにありて、よをなどかひのふちせともあき。

誓 心をちつらもつとぬ山吹うなと九字ふさなり。

皇 万葉の志るふれどほもきりなど我やとホ一三三とせぬ。

皇 玉ほこの遠るもこわんはゆれなどときのおも又ぬい。

古といふども正にえいなきは辞を誤ることあるべき事。古今集の同いひは古ハ今のぶとく辞の格などいひてこと小論すことハたえてあつぬことなれどもその字としてこのあることは、かよりなきことなれどもふいよいでたるまゝ、正しえいハされバ狩され、まを辞のともぬかあま志ことなるべし。て正しえいひてみれば、そのまぬを耳よさ、よてよか、ね、ふき、改も、たることなるべし。然思もる、古今集ハいとも。

えり正したるものなれば一首といふ處ともとのあ
はなく卷十又ほといきりみ祿のまよやま—り—あ
をきよてむすゆるが調もぬ—り—かト一本又又るよ
かなしとあるが正—き—又十九又—き—方と
たこやあそときけたれをれどもなきこ—あ—
あるハのぞやかの係なくてると結ひたれどもこは
あなと會む格よ—了—後撰集も古今集の六とくこ
そありねこもえとび正—たるなれば正—きと拾遺集
ハえいびをへられ交羊ちよ—ておられたるなればい
さ—う誤りたるもまどれまよ—古今集も同じ比の六
帖又も希又多誤りたるが見え古今集の作者の歌もそ
の家集の方又多い—のよそやおもさる—もあれは古今

集のいと—正—く誤りたる多—首もあることなき
ハその時代よよることと多あとて專正—えとられた
ればなりこをもて古へといへどもふとよ—いてたる
や—なるも多調もざるもあるべきことを知るべし
拾遺も多いさ—う誤りたるもまどける也

集 万きつ^{ナツ}ころいえなるよしなれどて志のしん人あるとて
望 此こそやるぬ人—あ—やまひをよあふひならて—やむ樂あし
同 志^下限つちきりつ—よ—ひを—あ—い—て—う—ひ—り—ぬ—し—ら—き—
同 旅ちの袖そぬるれも山々京の—は—お—さ—せ—じ—ら—な—も
古今いつれも玉緒も弁へられた也

古今集の同一頃のものみても誤りたるがある

六帖 春はあづき路よりそ思草のよとのもつてよむさし那らの風

伊勢物語 これやこの我ふあふもつこれづ年月これどまきうらほなき

まゝ同一頃のくみで

伊勢集 あつたれきさめとやうらむまのふよりまきふをづらうむ

玉緒 よめハむやハかと布ハとあり

まゝ古今集作者の歌ふもその家集の方ふいこのみぞ

やおもころくがあるま

貫之集 雨はこけい多み那の志まをふゆけど名こけいぬ物ぞある

これこけいとこのうりたるもゆけと受けながれどをそくで

下へつけたれきつと正しうぬを古今集のあつたれ

と改て入られたるこれみてふとよいのでたるまなる

ま希くふとぬのまぬもあるま正しえとあるとき

改められて正しくなれるもあることをささるべし

同 たつたのいふの松やよの中をまするくとやあかりをん

鑑 あつたのいふの松やよの中をまするくとやあかりをん

上件の歌どもをもて古といへども正も考へられハた

まは誤ることのあつたことを走るべし

世までこの辞の格あることをよく承へられは

ひうことのしおふきものなり或人の説に歌だ又よく
よめバ辞ハおのづかぢふ適ふものなりといへるらみ
トき誤るりそい上ふあげたるごとく古今集の作者達
の歌出ら誤りたるがあるをもて彼説のひがことなるを
走る登まこと近世ありて香川景樹加藤千蔭村田
よめりうどこれらの人々よりよめるは辞をちやまり
たるがいとおふきとれをやよくたよめバおのづか
ら調ふものまじはうくハありトやれなるをよく
おふものニ是らのことはおのが着せる針ねふしと
いふものハ或人問ひ又ハ辞の格とてことをらみ
論ふこともなくしを学ひてころるることハ本より
あつぬことなトヤ又何をもてといへると調ふぬを

考へ正したるものなるもや答へていふ考へ正して調
ひたるは調ふぬを志ることとはたとへバ琴などの調
子を合はるかひときものあるべしそはその調子を合
はとて別不則といはるものありて夫ふりけ試して正し
まもあつたはといふ度もあきなりし試れハ合へると
合ハざるハおのれと心は寛らることハ歌も古へは
いく度も歌ひ味ひ下こハるハれハ調へると調ハぬを
自然耳不聞きえ下るハものなるべしこはいはとても
辞の格ニヤ学ひても知れ一首の志トべのといへる
ととくのすぬといひて志をえ下ることなるもさとする

様言二種の差別ある事

様言の二種とは無形言これを暫く不動詞これを暫く
これなり無形言とは上卷のつへる春夏秋冬の類をべ
て目小見ある形はなくとも其やれところの物の名な
るも云不動詞とはたなるそれこれかれつれい
20など類をいふたれもあしろえおくべし

志支久活二かゝる辞の事

志支久活二四種詞のこごとく補正図にあげられたる五

段の辞おとく懸る二いあは下此一種小かゝる辞の
差別ありそは未然段は和れを續詞段はなをた
小のいお和れおのこや断止段は多てふとをか
や和れや續言段はなをかかまでにもよりたよを
おのこことかとなつたのいお和れやおのこやたのよ已然
段は和れやとも小かゝるよの外は志支久活二かゝ
ることなし

佐行轉用の事

四段下二段二種詞の自ら然る意の詞の佐行四段活小

轉るときは物を然る意となる 他は然せざる詞は
ふべし思ひ混はて然轉る詞は必阿韻よりうつる例なり
他ノ韻よりうつるそはき^イき^ウと活く詞のき^ヤは^ハカ
やし^シさ^サや^ヤき^キや^カとうつる^クく^クる^ルの^ノく^クら^ラこ^コくら^ラ
く^クら^ラひ^ヒく^クら^ラと^トうつ^ツる^ル又^マふ^フる^ルふ^フる^ルの^ノふ^フは^ハ
ふ^フら^ラし^シふ^フら^ラひ^ヒふ^フら^ラせ^セなどのお^オと^トく^ク轉^ルる^ル類^ノなり^ニは^ハて
又上二段詞の然る意自然^シなる^ル意^ノ詞^ノ佐行^ニ四^ノ段^ニ
活^クら^ラうつ^ツるときは他も然る意^トれる^ハは^ハて^テ然^ラ轉^ルる^ル詞^ノ
ハ大方於韻よりうつる例なりそは^オお^キお^クと^ク活^クく^ク詞^ノ
の^オお^コこ^コさ^サお^コこ^コい^イお^コこ^コせ^セと^トうつ^ツり^リお^チお^ツの^ノお

と^ハお^キお^クい^イお^コと^トせ^セな^ナど^ドの^ノこ^コと^トく^ク轉^ルる^ル類^ノれ^レは^ハかく^ク
この上二段は於韻下二段ハ阿韻れ^レハ^ハ同^ニこ^コよ^ヨ轉^ルる^ルニ
つきて寛^クと^ト狭^キと^ト分^クけて^テオ^ウハ^ハろ^ロえ^エお^クく^クべき^キこと^トあり
そは上二段より轉る詞は上^ノこ^コと^トく^ク於^ケ於^ケ韻^ヨより
うつる^ル常^ノの^ノ例^ノな^カハ^ハ稀^ニなる^ル紆^ハ韻^ハふ^ハより^ラうつ^ル例^ノ
もあれば寛^クとい^ハ紆^ハ韻^ヨより^ラうつ^ルる^ル詞^ノの^ノや^ハり^リたる^ル詞^ノハ^ハや^リち^チと^ト
と^ウら^ラつ^ツる^ルふ^フる^ルま^マと^ト阿^ハ韻^ヨより^ラうつ^ルる^ル詞^ノの^ノふ^フる^ルさ^サふ^フる^ルハ^ハこ^コり^リこ^コら^ラと^ト
活^クく^ク詞^ノの^ノこ^コら^ラさ^サこ^コの^ノ詞^ノな^カど^ドも^モて^テい^ハと^ト轉^ルる^ル希^ニれ^レる^ル例^ノなり
つ^ツる^ル例^ノと^ト是^レる^ル例^ノは^ハ下^ノ二^ノ段^ノより^ラうつ^ルる^ル詞^ノハ^ハ必^ズ
阿^ハ韻^ヨより^ラうつ^ルること^トた^ダえて^テな^レれば^ハ狭

つること佐行の方と異れることなしそは起きおくと
活く詞のおこらおこで起こるおこれとらつりのぞき
のぞくと活く詞ののぞこらのぞこりのぞこるのぞこ
れとうつれるがこととし
下ニ段の方ハ例いとなく上
ニ段の方ハいとまれなり

変格詞の事

変格詞ハ補正四々挙げられたる来為往有の四言のい
なれと為に坐言を會し往小死言を會し有十待居の二
言を會したまはぶ為又坐の言を會したるゆこのおと
やおととおとのおとれるとおとれと活く詞ハもと大

座為といふ詞ト下おと一と約りたるよて
と約りおとハおととつ一その坐ハ四段の活なれと大坐
まるなりよく考ふべしその坐ハ四段の活なれと大坐
と云居て為の詞して再活用したるなりゆれば此詞ハ
為詞活小會したるなり次死ハ息往の意にて往の詞活
又會し居ハあるありの約おとておとと約るを一言待ハ
ひてあるの約よて共小有詞の活又會したるゆれば此
八言あれども本ハ唯來為往有の四言のこととておとくし
此の詞ハ佐行の方と異れることなしそは起きおくと
活く詞のおこらおこで起こるおこれとらつりのぞき
のぞくと活く詞ののぞこらのぞこりのぞこるのぞこ
れとうつれるがこととし
下ニ段の方ハ例いとなく上
ニ段の方ハいとまれなり

④ あむ ④ あともふ 率
 ④ あむ ④ あへーくふ 應
 ④ あむ ④ あらふ 洗
 ④ あむ ④ あらふ 争
 ④ あむ ④ あせふ 門
 ④ あむ ④ あうけふ 赤
 ④ あむ ④ あいふ 荒
 ④ あむ ④ あがまふ 崇
 ④ あむ ④ あとらふ 詔
 ④ あむ ④ あむ 編

④ あむ ④ あなふ 案
 ④ あむ ④ あまなふ 義
 ④ あむ ④ あとがふ 争
 ④ あむ ④ あぢむ 味
 ④ あむ ④ あもれふ 憐
 ④ あむ ④ あてふ 貴
 ④ あむ ④ あふ 敢
 ④ あむ ④ あたふ 與
 ④ あむ ④ あまなふ 和
 ④ あむ ④ あむ 赤

④ あむ ④ あむ 推
 ④ あむ ④ あむ 淺
 ④ あむ ④ あむ 過
 ④ あむ ④ あむ 周章
 ④ あむ ④ あむ 賸
 ④ あむ ④ あむ 喰
 ④ あむ ④ あむ 冷笑
 ④ あむ ④ あむ 仇

④ あむ ④ あむ 顯
 ④ あむ ④ あむ 逢
 ④ あむ ④ あむ 當
 ④ あむ ④ あむ 逢
 ④ あむ ④ あむ 高
 ④ あむ ④ あむ 論
 ④ あむ ④ あむ 與
 ④ あむ ④ あむ 扱

④あやまる	④あやまる	④あまると	④あなぐる	④あつまる	④あたる	④あげる	④あふる	④ある	④あむる
過	肖	餘	探	聚	當	立居	上	有	無汗

④ある	④あらたまる	④あもる	④あぶる	④あなづる	④あちまると	④あざる	④あさる	④ある	④あまむる
荒	改	天降	焚	蔑	暖	嘲	求食	赤	俗同

④あざむ	④あはれむ	④あやふる	④あをむ	④あけむる	④あきらむる	④あつむる	④あやふる	④あなづる	④あむる
云詞	憐	危	青	赤	明	聚	怪	蔑	肖

④あだむ	④あやむ	④あむる	④あかむる	④あたまむる	④あたまむる	④あらたむる	④あやむる	④あゆる
仇	怪	歩	浴	崇	暖	淡	改	怪

花實

④ い つ る	④ い ま り	④ い ま り	④ い た り	④ い ち る	④ い な り	④ い た つ	④ い つ く	④ い だ く	④ い そ く
出	令 活	坐	致 財				齊	抱	急

④ い よ	④ い そ り	④ い ま り	④ い だ り	④ い ち る	④ い も く	④ い ら る	④ い な り	④ い た く	④ い そ く
云	令 急	令 坐	出			稚	鳥	嘶	戴

④ い く	① い る			④ あ め ら る	④ あ ふ る	④ あ も る	④ あ く る	④ あ き る	④ あ か る
生	射			蔑	溢			呆	退 散

④ い ぬ	① い る			④ あ ら る	④ あ た ま る	④ あ ざ る	④ あ て ら る	④ あ め ら る
沃				顯	敵	習		崇

④ うかぬふ
 ④ うかぶふ
 ④ うあつ
 ④ うもちり
 ④ うるほり
 ④ うなぢり
 ④ うつぶり
 ④ うごり
 ④ うめい
 ④ うくる
 ④ うめい
 ④ うめい

うかぬふ
 窺
 穿
 埋
 潤
 促
 動
 受
 呻吟

④ うまなふ
 ④ うけふ
 ④ うかぶ
 ④ うたふ
 ④ うらり
 ④ うちがり
 ④ うつり
 ④ うつり
 ④ うづま
 ④ うちくる
 ④ うちくる
 ④ うちくる

失
 契
 浮
 失
 令浮
 衰
 移
 心解
 濁卷

④ うづ
 ④ うそぶ
 ④ うた
 ④ うご
 ④ うる
 ④ うろどる
 ④ うろどる
 ④ うろどる

嘯
 イスクト同
 動
 得
 所厭
 彩
 祈

④ うなづ
 ④ うた
 ④ うた
 ④ うら
 ④ うら
 ④ うら
 ④ うら
 ④ うら
 ④ うら
 ④ うら
 ④ うら
 ④ うら

頂着
 怒
 薄
 領
 浮
 所射
 入
 忌

㊦ うたふ

謠

㊦ うべなる

諾

㊦ がちなふ

卜

㊦ うむふ

奪

㊦ うべなる

諾

上 うとぶる

踈

㊦ うむ

績

㊦ うつゝむ

屐

㊦ うなむ

諾

㊦ うらやむ

羨

㊦ うたふ

疑

㊦ がれふ

憂

㊦ うつろふ

移

㊦ うるふ

潤

㊦ うやまふ

敬

㊦ うむ

産

㊦ うづむ

埋

㊦ うとむ

踈

㊦ うむりむ

慶

㊦ うるむむ

麗

㊦ うれむ

嬉

上 うりむる

恨

下 うりむる

泛

㊦ うけむる

承諾

㊦ うかよる

躡

㊦ ころさる

浮

下 うかさる

打

下 うめがる

下 うらる

下 うとる

埋

㊦ がらむ

青

一 うしろる

後見

㊦ うる

賣

㊦ うこなる

集待

㊦ うまをる

蕃息

下 うかる

浮

下 うたると

打

下 うむる

下 うなると

下 うゝる 飢

於

四 おく 置

四 おほめ 悒

四 およぐ 游

下 おくる 起

四 おり 押

四 おくらり 起

四 おこり 起

四 おどろ 魔

四 おびやり 脅

四 おほり 生

四 おもほり 思

四 おろろ 下

下 おこり 送

下 おささ 送

上 おつる 落

四 おふ 頁

四 おぶ 帯

下 うゝる 植

四 おどろく 驚

四 おもむく 趣

四 おびく 趣

下 おもむくる 趣

四 おうり 犯

四 おくらり 落

四 おとり 落

四 おどろろり 驚

四 おびやり 同上

四 おほり 思

四 およほり 及

四 おろろ 坐

下 おりり 仰

下 おもろり 令思

上 おつる 懼

四 おふ 追

四 おこなふ 行

④ おこねる
④ おほそふ
④ おそなる
④ おこたる
④ おこる
④ おこる
④ おくる
④ かる
④ おほかる
④ おゆる
老 覺 織 贈 發 火 急 遅 繁

④ おびかる
④ おもる
④ おきのる
④ おくまる
④ おける
④ おこる
④ おそる
④ おとる
④ おもねる
④ かる
魔 思 賒 奥 奢 懼 劣 諧 下

④ おそふ
④ おほふ
④ およぶ
④ おる
④ おとなふ
④ おしまふ
④ おさふ
④ おなふ
④ おむむ
④ おむむ
襲 覆 及 生 長 奥 押 押 令坐

④ おとなふ
④ おるふ
④ おぎなふ
④ おきなふ
④ おらぶ
④ おりふ
④ おいむ
④ おとむ
④ おもむ
音信 思 補 箭 叫 思 衰 老 令思

㊦ かまひ	㊦ かざり	㊦ かり	下 かづくる	下 かいくる	㊦ かりく	㊦ かづらぐ	㊦ かたぶく	㊦ かまくる	㊦ かぶ
替	頭挿	借	授録	挑	乾	髪	傾	炊	嗅

㊦ かへり	㊦ かたり	㊦ かたけ	下 かまくる	下 かまくる	下 かくる	㊦ かびるぐ	㊦ かづく	㊦ かまづく	㊦ かどやく
返	鍛	隠	感	萎瘦	懸	舩	潜	崇	輝

㊦ かく	加	下 おろるゝ	下 おそるゝ	下 おとづるゝ	下 おびるゝ	下 おぼるゝ	下 おろるゝ	下 おろるゝ	下 おろるゝ
搔		所置	恐	音信	溺				

㊦ かく	下 おくるゝ	下 おそるゝ	下 おちるゝ	下 おどさるゝ	下 おどさるゝ	下 おもるゝ	下 おとさるゝ	下 おとさるゝ	下 おとさるゝ
書	後	魔				所思	所落		

④ かたらし 語
 ④ かなふ 叶
 ④ かなふ 僕
 ④ かなふ 替
 ④ かなふ 眞
 ④ かなふ 叶
 ④ かなふ 考
 ④ かなふ 梯
 ④ かなふ 屈
 ④ かなふ 畏

④ かたふ 該
 ④ かなふ 通
 ④ かなふ 抱
 ④ かなふ 構
 ④ かなふ 嚙
 ④ かなふ 垣
 ④ かなふ 垣
 ④ かなふ 垣
 ④ かなふ 垣
 ④ かなふ 霞

④ かよまし 通
 ④ かにまし 令
 ④ かにまし 乾
 ④ かなづる 勝
 ④ かなづる 舞
 ④ かなづる 重
 ④ かなづる 重
 ④ かなづる 買
 ④ かなづる 隠
 ④ かなづる 耀
 ④ かなづる 敷

④ かりん 令
 ④ かりん 枯
 ④ かりん 托
 ④ かりん 兼
 ④ かりん 委
 ④ かりん 養
 ④ かりん 耀
 ④ かりん 歌
 ④ かりん 抱
 ④ かりん 団
 ④ かりん 掠

④ くだり 腐
④ くだる 碎
④ くだる 婚
④ くだる 元貞
④ くだる 潜
④ くだる 野切
④ くだる 清
④ くだる 切

④ くだり 下
④ くだる 口説
④ くだる 碎
④ くだる 切
④ くだる 霧

① きる 着
④ きこめり 聞召
④ きやり 消
④ きはる 令着
④ きこえさける 同
④ きほふ 同
④ きらふ 霧相
④ きかむ 黄
④ きたむる 極
④ きゆる 消

④ きこり 聞
④ きざり 萌
④ きちり 霧相
④ きこりる 令聞
④ きこふ 競
④ きらふ 嫌
④ きかむ 刺
④ きよむる 清
④ きこゆる 聞

④ くつがへる 覆
 ④ くさる 腐
 ④ くいる 潜
 ④ くる 鑿
 下 くゆる 崩
 下 いらむる 闇
 ④ ぼむ 窪
 ④ くるまむ 苦
 ④ くむ 含
 ④ くむ 汲

④ くだる 下
 ④ くまる 今
 ④ くる 紋
 ④ くる 練
 上 くゆる 悔
 下 いらむる 含
 ④ くるむ 黒
 ④ くやむ 悔
 ④ くむ 組

下 くらふる 加
 ④ くらぶる 奇
 ④ くらふ 同
 下 くだつる 企
 ④ くだつ 更
 ④ くらひ 暮
 ④ くるほり 任
 ④ くらひ 薫
 ④ くらひ 崩
 ④ くらひ 崩

下 くらぶる 双
 ④ くらぶる 火
 ④ くらふ 狂
 ④ くらふ 喰
 上 くらつる 朽
 下 くらひる 食
 ④ くらひる 黒
 ④ くらひる 屈
 ④ くらひる 覆

④ くむる 配

④ くびる 縛

④ くゆる 薫

④ くるゝ 暮

④ くるゝ 吳

④ くるゝ 崩

④ くるゝ 屈

④ くるゝ 芳

④ けさやく 鮮

④ けろハ 穢

④ しむる 加

④ しむる 曇

④ しむる 闇

④ しむる 昏

④ しむる 昏

④ しむる 昏

④ しむる 昏

④ しむる 昏

④ しむる 昏

④ しむる 昏

④ けまきかむ 想

④ けまきかむ 想

④ けろハ 穢

④ けとらるゝ 今

古

④ こく 稻

④ ころぐ 噤

④ ころハ 樵

④ ころハ 粉

④ けづる 削

④ けおさるゝ 押

④ けたるゝ 所

④ ころぐ 漕

④ ころハ 越

④ ころハ 志

④ ころハ 令

④ こぼめり

利音亮

④ こらり

凝

④ ころり

殺

④ こふ

乞

④ こふる

戀

上 こよりらざる

④ こたふる

答

④ ことなるむ

無事

① こしらる

試

④ こゆる

卧

④ こやり

卧

④ こらり

令懲

④ こぼつ

壊

④ ころぶ

嘖

上 こぶる

媚

下 こまちふる

拵

④ こむ

好

④ このむ

筆

○ こむる

肥

④ こゆる

肥

④ こゆる

越

④ こる

理

④ ことる

理

④ こる

箆

④ こる

懲

④ こぼる

毀

④ こる

凝

④ こぞる

拳

④ こほる

氷

④ こやる

卧

④ こある

呵

④ こらる

嘖

佐

④ さく

咲

④ さくめく

咲

④ さく

裂

④ さくやく

同

④ さびある 進
 ④ さけぶ 叫
 ④ さそふ 誘
 ④ さふらふ 侍
 ④ さふる 障
 ④ されらふる
 ④ さくむ
 ④ さだむる 定
 ④ さうゆる 栄
 ④ さうる 盛

④ さあふ 逆
 ④ さあらふ 尤
 ④ さまよふ 吟
 ④ さらぶふ 憔悴
 ④ さきあふる 幸
 ④ さいなむ 罵
 ④ さむる 醒
 ④ さゆる 亦
 ④ さのぼる 公

④ さへぐ 嚙
 ④ さやぐ 噪
 ④ さはめく
 ④ さくる 避
 ④ さいふる 捧
 ④ さまたぐる 妨
 ④ さがひ 探
 ④ さとひ 喻
 ④ さらひ 晒
 ④ さうやうひ

④ さばく
 ④ さわせぐ
 ④ さるぐ
 ④ さづくる 授
 ④ さぶる 提
 ④ され 挿
 ④ さあらまひ 尤
 ④ さまひ 醒
 ④ さまよひ 令
 ④ さらまひ 令

④ 志つゝ	④ 志をぶく	④ 志をぞく	④ 志りける	④ 志らくる	④ 志めり	④ 志るに	④ 志らひる	④ 志、まふ	④ 志たがふ
沈	噪	退	白	精	示	記	令知	進退	隨

④ 志のけり	④ 志ぶく	④ 志りぞく	④ 志れたる	④ 志、こらへり	④ 志ぶたり	④ 志ろしめり	④ 志にづる	④ 志たふ	④ 志つらふ
凌	雨水	令退		仕換		知召	證	慕	修理

志

④ 志く	④ 志ぞく	④ 志くぞる	④ 志だまる	④ 志とる	④ 志やる	④ 志るをり
敷	退			悟	支	所誘

④ 志く	④ 志だく	④ 志へづる	④ 志づる	④ 志がる	④ 志いる	
及	下	洒落	嘖	授	離	探

下 志のちる
 下 志くちる
 下 志る
 四 志るる
 四 志まる
 四 志なる
 四 志ける
 四 志る
 下 志なる
 匿 知 茂 無 縛 結 吃 知 時雨 所忍

下 志なる
 下 志づる
 下 志る
 四 志るる
 四 志める
 四 志ぼる
 四 志なる
 四 志るる
 下 志なる
 姜 頻 滴 紋 湿 呵嘖 痴 沈落 姜

下 志つむる
 下 志むる
 下 志むる
 〇 志らむ
 四 志づむ
 四 志あむ
 四 志らぶる
 上 志のふる
 上 志ふる
 四 志なる
 上 志なる
 姜 強 忍 調 柵 沈 白 ト 縮 鎮

下 志つむる
 下 志たむ
 下 志むる
 四 志むむ
 四 志ぼむ
 四 志らむ
 四 志む
 下 志たがる
 上 志ふる
 四 志ぬぶ
 思 盲 順 染 龜手 皺 閉 認 沈

④ あり 居
 ④ あり 曲
 ④ あり 吸
 ④ あり 摺
 ④ あり 涼
 ④ あり 荒
 ④ あり 濟
 ④ あり 統
 ④ あり 相
 ④ あり 友
 ④ あり 枚

④ あり 撮
 ④ あり 七
 ④ あり 煤
 ④ あり 壘
 ④ あり 選
 ④ あり 令
 ④ あり 進
 ④ あり 進
 ④ あり 俗
 ④ あり 同
 ④ あり 清
 ④ あり 進
 ④ あり 荒
 ④ あり 住

④ あり 須
 ④ あり 漉
 ④ あり 透
 ④ あり 灌
 ④ あり 速
 ④ あり 煤
 ④ あり 過
 ④ あり 沐
 ④ あり 為
 ④ あり 捨

④ あり 好
 ④ あり 喰
 ④ あり 集
 ④ あり 合
 ④ あり 答
 ④ あり 欺
 ④ あり 物
 ④ あり 齋
 ④ あり 令
 ④ あり 住
 ④ あり 吸

下 下ろふる 副
四 下ろふる 損
四 下ろだつ 育
上 上ろほづる 濡
下 下ろくる 動揺
四 下ろよめく 背
四 下ろむく 背
四 下ろろく 灌
四 下ろく 退

下 下ろふる 榊
四 下ろふる 榊
四 下ろふ 添
下 下ろだつる 育
四 下ろれ 物ラシヒテスル
下 下ろむくる 背
四 下ろよめく 戦
四 下ろほめく 同
四 下ろく 同

下 下ろろる 疥
下 下ろたる 疥
下 下ろさる 疥
下 下ろたむる 責
下 下せむる 責
四 下せく 塞
世
曾

下 下ろる 勝
下 下ろる 速
下 下ろる 居
下 下せかる 疥
下 下せむる 逼
四 下せめく 閱
下 下せかる 疥

下 たしをふる 貯
下 たつぎふる 携
下 たまふる 賜
四 たしむ 工
四 たしむ 畳
四 たしむ 頼
四 たしむ 弛
四 たしむ 行
下 たむる 撓
下 たむる 憑

下 たしふる 称
下 たしふる 譬
四 たしむ 廻
四 たしむ 嗜
四 たしむ 樂
四 たしむ 撓
四 たしむ 溜
下 たむる 嗜
下 たむる 弛

四 たぎつ 瀑
四 たぶ 給
下 たがぬる 束
四 たしふ 比
四 たしふ 戦
四 たしふ 漂
四 ためらふ 汗
四 たらふ 足
上 たけふる 猛
下 たがふる 違

下 たつる 立
四 たがふ 違
下 たがぬる 尋
四 たしふ 貯
四 だけふ 賜
四 たまふ 漂
四 た中たふ 流
四 たつさふ 携
下 たぶる 堪
下 たがふる 類

下 たもる 戲
 下 たふる 倒
 知
 四 ちり 散
 四 ちりふ 盟
 四 ちりふ 散
 四 ちりむ 縮
 四 ちり 散

下 たふる 同
 四 ちり 告
 四 ちり 告
 四 ちり 告
 四 ちり 告
 下 ちり 違
 四 ちり 鑊
 四 ちり 契

下 たむむる 撓
 四 たる 足
 四 たぎる 沸
 四 たぬる 助
 四 たなむる 疊
 四 たづなむる 携
 四 たむる 計
 四 たむる 送
 四 たむどほる 徘徊
 下 たむる 集

下 たむる 純
 四 たる 垂
 四 たぐる 手標
 四 たる 崇
 四 たる 給
 四 たむる 溜
 下 たる 壘
 下 たる 爛

都

つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ
つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ
ひ	ら	な	ち	な	た	な	ら	ら	ら	ら
や										
貴	令	續	附	貫	繫	繼	付			

つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ
つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ
と	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら
む										
勤	摘	集	仕	集	繕	突	遣	告	尽	列

つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ
つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ
ひ	ら	な	ち	な	た	な	ら	ら	ら	ら
や										
齋	抓	積	傳	罪	傳	債	番	連	束	

つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ
つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ
と	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら
む										
勤	摘	集	仕	集	繕	突	遣	告	尽	列

下四とくる
解
下四ころく
下四こよぐ
サワカシキ意
下四とづく
届
下四ときめく
時ニア
下四とく
解
下四てらふ
街
下四てらり
街

登

下四つくる
作
下四つゝある
暗
下四つものる
暮
下四つものる
積
下四つらなる
連
下四つみる
芳
下四つきうる
照

五

下四とくる
遂
下四とくめく
動揺
下四とよめく
夷
下四とづく
嫁
下四とぐ
研
下四てらり
差

下四つふる
縛
下四つふる
約
下四つよる
強
下四つる
世ニルナド
下四つぶる
漬
下四てらり
照

④とよきめより

動揺

④とよごころより

通

④とよもり

閉

④とよらりる

飛

④とよふ

調

④とよこふ

伴

④とよふふ

調

④とよむいぶる

捕

④とよなる

美

④とよむ

美

④とよざり

閉

④とよほり

通

④とよもり

動揺

④とよづる

閉

④とよぶ

飛

④とよのふ

調

④とよたふ

伴

④とよふりる

調

④とよらふ

捕

④とよむい

美

④とよむ

動揺

④とよみむる

咎

④とよむむる

止

④とよる

取

④とよなる

隣

④とよまる

留

奈

④なく

泣

④なげく

歎

④とよむる

留

④とよぢむる

閉

④とよむいむる

乏

④とよごほる

滞

④とよほる

通

④なげ

和

④なぐる

投

④なぶる 鬪
 ④なつささる
 ④なる 鳴
 ④なごむる 和
 ④ななむる 詠
 ④なれむむ 馴
 ④なへむむ 萎
 ④なごむ 和
 ④ならぶる 並
 ④なむらぶる 擬

④なぶる 誥
 ④なのる 各告
 ④なる 成
 ④なだむる 宥
 ④なぐさむる 慰
 ④なむる 嘗
 ④なやむ 恹
 ④なづむ 恹
 ④なくさむ 慰
 ④なそぶる 同

④なり 産
 ④なり 似
 ④なごい 和
 ④なほい 直
 ④なやい 意
 ④ならい 馴
 ④ならをい 習
 ④なぞらふ 擬
 ④ならぶ 習
 ④なぶる 並

④なり 寐
 ④なぞい 流
 ④なびい 廉
 ④なやま 恹
 ④ならい 鳴
 ④ならをい 令習
 ④なづる 撫
 ④なづさふ 馴
 ④ならぶ 並
 ④なむらぶる 存在

④ なる

直

④ なる

馴

爾

④ なる

逃

④ なる

句

④ なる

句

① なる

似

④ なる

擔

④ なる

呻吟

④ なる

訛

④ なる

流

④ なる

逃

④ なる

似

① なる

煮

④ なる

賑

④ なる

句

④ なる

賑

④ なる

苦々

④ なる

和

④ なる

睨

④ なる

濁

④ なる

鉞

④ なる

所患

奴

④ なる

後

④ なる

額衝

④ なる

憎

④ なる

鉞

④ なる

握

④ なる

臨

④ なる

患

④ なる

脱

④ なる

後

下のたまをいる 宣
四のむり 延
下のくろ 退
四のくろ 退
乃

上ねぶる 成長
四ねる 塗
四ねふる 擔
下ねらるゝ 疔疥

四のこみ 除
下のある 載
四のこみ 残
四のこみ 拭

四ねたむ 妬
四ねる 煉
四ねむる 寐

四ねがらふ 勞
四ねやれ 稔
四ねざい 祈
四ねふ 祢

四ぬり 濡
四ぬふ 縫
四ぬりむ 盜
四ぬる 塗

下ねどくる 倭
四ねがらふ 願
四ねたまひ 睨

下ぬるゝ 濡
四ぬるむ 水
四ぬたまふ 盜
四ぬる 寐

波

④ をく 佩
 ④ をく 剥
 ④ をぶく 省
 下 をく 合
 ④ をがま 劬
 ④ をまら 活
 ④ をちう 走
 ④ をちう 同
 ④ をち 放

④ をく 掃
 ④ をち 彈
 ④ をく 消遣
 下 をく 消遣
 ④ をたり 果
 ④ をつ 今同
 ④ をちう 放棄
 ④ をち 晴

④ のたまふ 宣
 下 のぶる 延
 ④ のむ 祈
 下 のどむる 令和
 ④ のる 乘
 ④ のころ 残
 ④ のどまる 和
 ④ のむかる 除
 下 のばる 野延

④ のろふ 呪
 ④ のむ 飲
 ④ のそむ 望
 ④ のる 告
 ④ のろ 罵
 ④ のぞころ 除
 ④ のぼる 登
 ④ のぐる 遁

〇 ひろぐる 廣
 〇 ひた 養
 〇 ひららへ 口利貞
 〇 ひつ 濡
 〇 ひとりごつ 獨言
 〇 ひいつる 秀
 〇 ひりふ 拾
 〇 ひる 于
 〇 ひらふら 扣
 〇 ひそむ 潜

〇 ひたり 浸
 〇 ひのり 響
 〇 ひやり 馬スラスル
 〇 ひだつ 日立
 〇 ひつる 濡
 〇 ひにづらふ 引
 〇 ひきまらふ
 〇 ひる 噴
 〇 ひがむ 今上同
 〇 ひるむ 痺

下 もつる、 系ト
 下 もふる、 派浪
 〇 ひく 引
 〇 ひえめく 引
 〇 ひらめく 引
 〇 ひらめく 引
 〇 ひそめく 引
 下 ひた、くる 巨

下 もなる
 〇 ひざまつ 躑躅
 〇 ひく 響
 〇 ひらめく 開
 下 ひくくる 拉
 下 ひらくる 發

下	四	四	下	変	四	四	下	四	四
ふりふる	ふるあふ	ふれあふ	ふさぬる	ふりぬる	ふるちぬる	ふり	ふくる	ふづく	ふたぐ
	起居	云々意	撰	舊		卧	更	忽	閉

四	下	四	四	下	四	四	下	四	四
ふむ	ふまふ	ふるふ	ふさふ	ふりる	ふりぬ	ふるぬ	ふたぐる	ふいぐ	ふせと
踏	踏	振	良	伏	令振	舊	閉	吹雪	防

四	不	下	下	四	四	四	下	下
ふと		ひりる	ひりる	ひろあ	ひたる	ひる	ひろむ	ひがむ
吹		所引	引	弘	浸	痢	弘	僻

四	下	四	四	四	下	下
ふく	ひたる	ひろこ	ひぬる	ひる	ひやる	ひそむ
拭	所濡		枯	光	冷	潜

保

④ ほさぐ

祝

④ 下ほくる

惣

④ ④ ほれ

干

④ ほたい

④ ほのめり

ヒツカニ
アミハス良

④ ④ ほろぼれ

亡

④ ④ ほとぶる

④ ④ ほりまむ

邊

④ ④ ほゆる

吼

④ ふくむ

含

④ ④ ふくむる

深

④ ④ ふる

振

④ ④ ふる

觸 キヨリ

④ ④ ふたぶる

塞

閑

④ ④ へく

其

④ ④ へだつる

同 キヨリ

④ ④ へなる

隔

④ ④ ふくだむ

髪 ノケ

④ ④ ふる

降

④ ④ ふる

觸 キリ

④ ④ ふたぶる

④ ④ へだつ

隔 キリ

④ ④ へつらぶ

詣

④ ④ ほのめく

④ ④ 下ほろく

④ ④ ほころむ

④ ④ ほごこり

④ ④ ほころ

今ホカレテオク

④ ④ ほころぶ

綻

④ ④ ほろぶる

④ ④ ほむる

巻

④ ④ ほる

堀

美

④ まくる 擁
 ④ まさくる 搔探
 ④ ませる 廻
 ④ まるる 参
 ④ まぬろろ、 所免
 ④ まつぱろし
 ④ まみる、 深
 ④ まきるし 紛

④ まさる 増
 ④ まどろ 文
 ④ まもる 守
 ④ まさへろし 所惑
 ④ まどろまるし
 ④ まらなてるし
 ④ またろし、 所待

④ まかなふ 賄
 ④ ましろふ 交
 ④ まこふ 惑
 ④ まなぶ 學
 ④ まひなふ 賂
 ④ まろぶ 轉
 ④ まろふ 主
 ④ まとろる 痢

④ まかなふ 咒
 ④ まつらふ 纏
 ④ まとふ
 ④ まなぶ 迷
 ④ まなぶ 學
 ④ まがふる 紡
 ④ まどろる 文
 ④ まいゆる 見
 ④ まろる 退

④ みるく 磨
 ④ みちびく 導
 ④ みどろく 身ウツカス
 ④ みめぐらひ
 ④ みまひ 乱
 ④ みつ 満下ニハ意 黒ナリ
 ④ みある 見
 ④ みくる 征
 ④ みるく 向
 ④ むせぶ 結
 ④ むつぶる 親
 ④ むくゆる 教
 ④ むさぶ 貧
 ④ むる 群
 ④ むあぼる 結
 ④ むさる 結

④ みそぐ 身潔
 ④ みつぐ 貢
 ④ みづく
 ④ みそなまひ
 ④ みある 令見
 ④ みつりむ
 ④ みたる 乱
 ④ みだる 乱
 ④ むたぐ 棋
 ④ むり 産
 ④ むあふ 向
 ④ むせぶ 咽
 ④ むあふ 虫食
 ④ むかる 向
 ④ むつろ 睦
 ④ むあぼる 同

年

④ みるく 磨
 ④ みちびく 導
 ④ みどろく 身ウツカス
 ④ みめぐらひ
 ④ みまひ 乱
 ④ みつ 満下ニハ意 黒ナリ
 ④ みある 見
 ④ みくる 征
 ④ むせぶ 結
 ④ むつぶる 親
 ④ むくゆる 教
 ④ むさぶ 貧
 ④ むる 群
 ④ むあぼる 結
 ④ むさる 結
 ④ みそぐ 身潔
 ④ みつぐ 貢
 ④ みづく
 ④ みそなまひ
 ④ みある 令見
 ④ みつりむ
 ④ みたる 乱
 ④ みだる 乱
 ④ むたぐ 棋
 ④ むり 産
 ④ むあふ 向
 ④ むせぶ 咽
 ④ むあふ 虫食
 ④ むかる 向
 ④ むつろ 睦
 ④ むあぼる 同

夜

下 もよほさる
 下 もる
 四 もどる
 四 もる
 四 もる
 下 もさむる
 四 もらふ
 四 もこよぶ
 委蛇
 求
 洩
 守
 戾
 洩
 所催

四 もとふ
 四 もむ
 下 もゆる
 四 もる
 四 もがる
 四 もとほる
 下 もりさる
 徘徊
 揉
 燃
 盛
 挨
 徘徊
 所洩

免

四 めい
 下 めい
 下 めなる
 目馴
 目馴

四 めい
 下 めか
 目離
 目離

母

四 とい
 下 とだ
 下 とら
 四 とみ
 紅葉
 令漏

四 もど
 四 とて
 四 とつ
 上 とい
 同
 持
 響
 戾

④ ④ ④ ④ ④	④ ④ ④ ④ ④	④	④ ④ ④	④ ④ ④
ゆふ	ゆづる	ゆるい	ゆるい	ゆい
結	殊	免	行	休
		ユルム		休

④ ④ ④ ④ ④	④ ④ ④ ④ ④	④ ④ ④	④ ④ ④	④ ④ ④
ゆるふ	ゆたぬる	ゆるい	ゆるい	ゆい
弛	委	寛	揺	響
				揺

④ ④ ④ ④ ④ ④ ④ ④	④ ④ ④ ④ ④	④ ④ ④	④ ④ ④	④ ④ ④
やる	やむる	やいさむ	やむ	やとふ
遺	止	不平	病	産
			養	和

④ ④ ④ ④ ④ ④ ④ ④	④ ④ ④ ④ ④	④ ④ ④	④ ④ ④	④ ④ ④
やる	やむる	やささむ	やむ	やとふ
破	休	瘦	止	逐
		萎		休

④ ④ ④ ④ ④ ④ ④ ④

④ ④ ④ ④ ④

④ ④ ④

④ ④ ④

④ ④ ④

④ ④ ④ ④ ④

④ ④ ④

④ ④ ④

④ ④ ④

④ ④ ④

④ マー
分

④ マー
慄

④ マー
令慄 ケラス息

④ マー
束

④ マー
笑

④ マー
若

④ マー
變若

④ マー
破

④ マー
趨

④ マー
趨

④ マー
若變

④ マー
分

④ マー
涌

④ マー
分

④ マー
煩

④ マー
佗

④ マー
辨 忘る

④ マー
忘る

④ マー
分

④ マー
渡

④ マー
蟠

④ マー
別

④ マー
惡

⑤ 韋

④ マー
敬

④ マー
居

⑥ 惠

④ マー
味

④ マー
割

④ マー
忘

④ マー
割

④ マー
忘

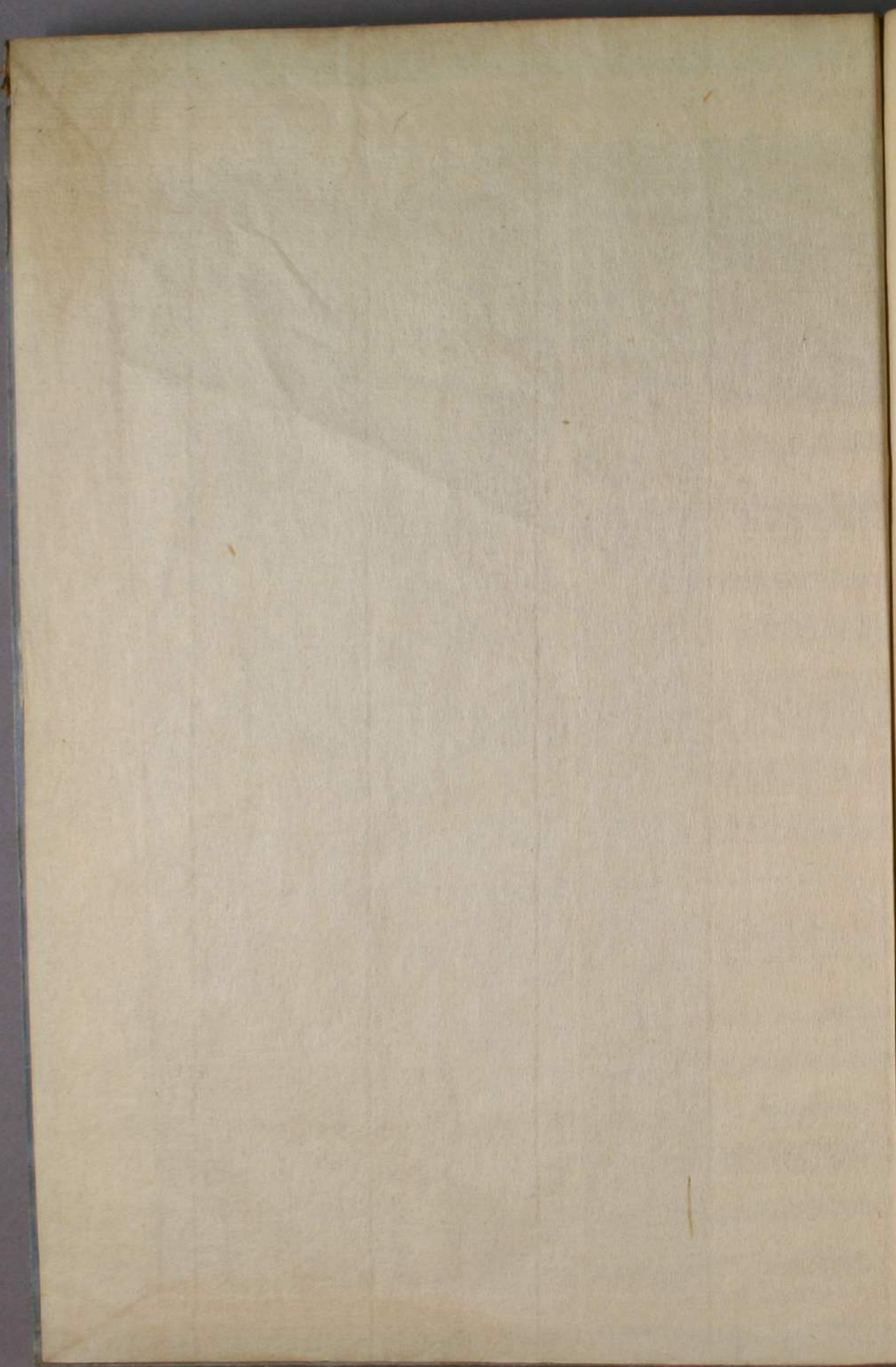
④ マー
味

④をろるゝ 拜
 ④をせらる 望見
 ④をさる 終
 ④をろるゝ 折

④をさむる 納
 ④をしる 躍
 ④をしる 攪
 ④をらるゝ 所折

④をろるゝ 笑
 ④をろるゝ 彫
 ④をろるゝ 醉
 ④をろるゝ 招
 ④をろるゝ 戦慄
 ④をろるゝ 毒害
 ④をろるゝ 幼
 ④をろるゝ 拜

④をろるゝ 醉
 ④をろるゝ 笑
 ④をろるゝ 食
 ④をろるゝ 變若
 ④をろるゝ 終
 ④をろるゝ 惜



Handwritten text in a cursive script, likely Japanese, is visible on the right page. The text is arranged in vertical columns and includes several lines of characters, some of which are written in red ink (kuzushiji). The text is faint and difficult to read due to fading and the age of the paper.

